

未来をデザインする

学校長 杉 森 伸 吉

日一日と、陽の光が輝きを増し、桜の花もほころび始め、春爛漫な季節となりました。今年度は、平成が「現在」から「過去」にかわる瞬間、令和が未知の「未来」から「現在」にかわる瞬間を経験し、7月の東京オリンピックという56年ぶりのイベントを近未来に控える中、新型コロナウイルスの影響で、3月当初からの全国一斉休校を一国の総理大臣が要請するという、おそらく日本学校史上初めての経験をしています。こうした誰も経験していないような状況下に、職場、家庭、学校などが置かれている中、本校からのご連絡にもご理解・ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。教職員一同、それぞれの菊の子たちが、どうすれば、より心豊かに生活していけるのか、日夜考え続けております。

6年間菊の園で大切に育ててきた菊の子たちも、立派な大輪の花を咲かせるように、心身ともにたくましく育ち、14日に、保護者と教員が見守る中、晴れやかな表情で卒業いたしました。

一緒に成長し、思い出をはぐくんできた仲間たちや下級生たちも、6年生とお別れするのは寂しいですね。今回はお別れに取れる時間が例年よりも少なかったですが、それだけに、お互いの存在の大切さ、いとおしさを、いっそう感じる事ができたのではないかと思います。

現在の菊の子たちが大人になっていく10年後、20年後の世界は、VUCA(ヴォカ)・ワールドともいって、より一層、変動性(Volatility)・不確実性(Uncertainty)・複雑性(Complexity)・曖昧性(Ambiguity)が高まり、それまで人類が経験していないような出来事への対応力が問われる時代になると予測されています。新型コロナウイルスが引き起こした状況も、まさにVUCA・ワールドの典型と言えるでしょう。こうした世界では、いままで正解とされてきたことを、そのまま当てはめてもうまくいかないが、「なぜいままで正解だったのか」が理解できれば、新しい状況でも適切に行動できる可能性が増えるのではないかと思います。そういう中で、定まったルールの上を歩く生き方よりも、自分で未来をデザインしていく力が大事になっていくことでしょう。菊の園の6年間では、こうした力も育まれてきました。

菊の園では、「行事で子どもを育てる」という考えで、実に様々な体験を積んできましたが、体験を積むことで、様々なことへの理解も深まりますし、勘が働くようになります。勘や直感が適切に働くということは、VUCA・ワールドを生きる時、とくにリーダーになるうえでは、大切なことだと思います。集団での意思決定をするときに、実体験の少ないリーダーが、頭だけで考えると、間違えた決定をしてしまい、集団全体に迷惑をかける可能性が増えるので、これからも、さまざまな体験を積んで、直観力や、勘の良さを養ってほしいと思います。

送り出す私たちは、卒業生の皆さんが、さらに大きく成長した姿を、将来また見せてくれることと信じ、再会できる日を楽しみにしています。

最後に、保護者、菊泉会、泉友会などの皆様にも、いつもご理解とご助力を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、今年度も一つの区切りを迎えることができましたが、今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。